

仰ぎたる光の中に古巢かな

山田真砂年

『俳壇』 五月号 「光の中に」 より

巢作りは鳥の種類によつてさまざまに異なる。「前の古巢はそのままにして新たに巢をいとなむことが多い」とある。掲句はあかるい陽光の中にうち捨てられた「古巢」がみえたというのである。光と影の対照が印象的である。くりかえされる自然のいとなみへの感慨がったわる。